

2000誌 に せ ん し

第19号
発行(社)鹿児島県建築協会
青年部会
鹿児島市城山町2-13
TEL(099)224-5220

このような中、私共青年部会はIT推進室の活動として「会員への有益な情報とは何か」として「喜ばれる・役に立つ情報発信」を試行・実践してまいります。



青年部会長
吉満 祐市

おかげさまで平成19年度の青年部の

会の総会も無事に終了いたしました。昨年度は青年部会創立10周年記念として式典と懇親会を開催させていただきました。多くの方の来賓や親会の皆様により、青年部会への叱咤激励をいただき、大変ありがたい一年でした。一年間お世話になった皆様と支えていただいた青年部会員にこの場を借りて心より御礼申し上げます。

さて、現時点において各自治体での入札取り組みの中で、一般競争入札を取り入れる自治体が出てまいりました。入札方法の改変は多くの場合が共に影響があり、より一層の企業努力を求められることとなってまいります。大変なことですが、この動きは拡大していくことと考えられます。

又、近隣(熊本・宮崎)の青年部会との交流を総務委員会の段取りで鹿児島で実施し、互いの現状報告や活動計画を認識し合い、当青年部会や協会にフィードバックするように努めます。

次に、会員研修委員会では大型民間工事の現場見学会を開催し、その規模や雰囲気、工法を研修いただきたく考えております。

更に、活動委員会では、建築への青少年の興味や理解をいただく活動として、「建築展」への参加促進に力を入れる計画を立てております。

今年度、各委員会活動計画の一部を列記いたしました。当協会が多くの波や風を受ける業界の中において、負けない組として存続するために、青年部会として試行錯誤しながらも新しい事業や改善した事業等を推進し、

二年間の成果を上げられるような年にしてまいりますので、関係各位のご協力と青年部会員の「ご尽力をよろしくお願い申し上げます。

総務委員会



総務委員長
南 洋和

委員メンバーとして会員の皆様のお協力のお

陰で平成18年度総会、懇親会の運営また「会員手帳」の更新、「2000誌第17号・第18号」の発刊や「協会だより」の原稿寄稿と特別事業の青年部会創立10周年式典・懇親会を行いました。

今年度、4月27日には平成19年度定時総会・懇親会も無事開催することが出来ました。会員数も年々減ってくる中で動員数も昨年とほぼ同様の出席を頂けた事に対して皆様方の御協力に感謝しているところであります。

今年度の今後の事業と致しまして昨年度に引き続き「会員手帳の更新」「2000誌の発刊」「協会だよりの原稿寄稿」を行う予定です。今年度の

新規事業として、「三県合同懇談会の運営」を9月実施予定、平成20年1月には「臨時総会、レクリエーション懇親会運営」を行う予定です。「2000誌」におきましては部会長、各委員長、室長だけの掲載によるマンネリ化対策として5月理事会にて今回から「アルファ」として副委員長さんにも原稿寄稿参加することに決定し、掲載されております。これにより、より親しまれる2000誌になればと思っております。

最後に残りの期間も会員間の更なる交流出席率アップを目標に頑張っていきたいと考えておりますので今後ともご協力の程よろしくお願い致します。



平成19年度定時総会
場所：レクストン鹿児島



会員研修委員会



会員研修委員長
森田 達朗

青年部
会の理事
会の一員
となり、そ
の大きさ

大切さ、事業を企画、実行する難しさを感じた一年目でした。

さて、本年度の会員研修委員会の事業ですが、今、鹿児島県において多数の大規模商業施設が進出、出店する中でも最大規模の施設として注目されている「仮称「イオン鹿児島東開ショッピングセンター」」の現場見学会・技術者講習会を計画しております。

他県でも起こったSC乱立競争が鹿児島でも起こるのでしうか。そして既存店の対応は・・・。

地元住民には、ショッピング出来るところが増えるのは良いことでしょうが、街創りとしては、どうなのでしょううか。考えさせられるような気がします。

建設業界も大変な時代ですが、他の業界も厳しい時代のような気がします。

また、もう一つの事業の経営者講習会ですが、今までも何回か取り上げら

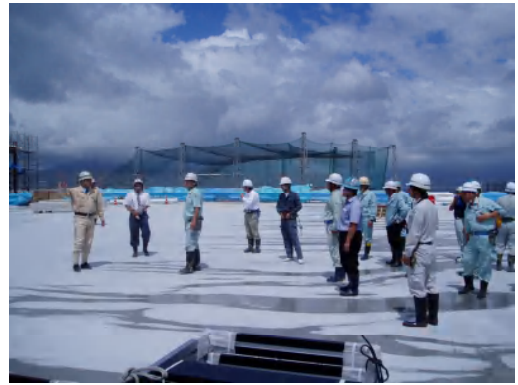
れていますが、「県、各市町村の電子入札、電子納品のCALIS化」、「鹿屋NPO（柳谷隊）通称ヤネダンの町おこし」、「建設業界の社会的地位の向上」などをテーマに協議を重ねているところです。委員会の事業を通して会員の皆様のお役にたてれば幸いです。

本年も委員会のメンバーと共に力を合せて努力して行きますので皆様のさらなるご指導ご鞭撻ご協力をよろしくお願い致します。

原稿入稿後に開催された現場見学の模様です。報告は次回にさせていただきます。



現場見学会・技術者講習会
場所：イオンSC建築現場



活動委員会



活動委員長
村岡 博文

新年度が
始まり3ヶ
月が過ぎま
した。

活動委員会の事業として7月末日に昨年引き続き身障者・高齢者疑似体験を行なう予定です。ぜひ奮って参加してくださいませお願い致します。

もう一つの事業であります青少年育成事業ですが10月に開催される『かごしま住まいと建築展』に小学生、中学生、高校生を対象に招待する計画をしています。地方の学生また一般の学生にとつて『かごしま住まいと建築展』のことはあまり知られていないような感じがします。そこで子供たち対して建築展に参加する機会を与え、少しでも建築に興味を持って頂き、建築の魅力、意義を理解してもらいどのような形で良いので建築に関わってもらえればよいと思いい計画しています。また学校関係者の理解を得る等の課題はありますが解決して建築業界のイメージアップ活動になればよいと思っておりますので皆さんの協力よろし

くお願い致します。

IT推進室



IT推進室長
原田 義久

この世の中、切っても切れないパソコンの

社会になってきています。我々、建築業界でも電子入札・電子納品・電子カタログと言ったパソコンを使わないといけない時代になってきました。

インターネットにつなげば最新のニュースが、また家にいながら買える物も出来ます。今からはIT化の時代だと思えます。

建築協会としましては、平成18年度にグループウェアソフト(サイボウズ)を使いFAXレスになりました。初めは会員の方の戸惑いもありましたが1年がすぎて定着してきました。本年度は、我々のサイボウズに納入業者の掲示板を設けようとしています。その中で、宣伝・広告を行い「建築協会の会員だけのメリットの有る掲示板」にして行きます。

次に、建築協会のホームページを見



てもらおうに「棟上げ情報」をブログ化して載せようと思えます。家を作る時、お施主様と一緒に多くのの方が棟上げを祝っていただけ情報提供できる様にしていきます。

防災協定マップ作りも行っています。災害が起きた時の為にGoogleマップを使い、会員の会社の所在地が一目で分かる様な防災協定マップを作ります。

本年は、熊本・宮崎・鹿児島で「三県建協合同研修会」が鹿児島で行われます。その為にも他建協会の事例等を基に勉強して行きたいと思えます。

私も一言



会務委員長
副委員長
千原基彦

一昨年の秋、パリを訪れる機会が

ありました。いわゆる観光バスのツアーではなく、地下鉄などの公共機関を使つての気ままな旅でした。

いつもなら全くしない朝の散歩なのですが、知らない町を歩くというのは気持ちのいいものです。朝霧がかかると町からはいつもと変わらないである。日常の音が聞こえ、路地裏のカフェに立ち寄り、地元の人達が楽しそうに話をしています。何を話しているかはさっぱりわからないのですが、こんな何気ない日常風景がとても新鮮に感じたのです。

書物や映像だけではわからないその場の空気を味わい、実際に見ることで町の一部に触れたような気がします。五感をフルに活用することにより、普段は気付かない新しい発見が出来ると感じた旅でした。



会務委員長
副委員長
八野源太郎

今回の誌は自由題材でした。

たので最近購入したハイブリッドカープリウスを題材にさせていただきました。

気になる燃費ですが、購入当初がリッター当り15kmぐらいでしたが、発進時の加速を抑えてできるだけリッターで走るようにして最近ではリッター20kmぐらいまで伸びてきました。今までは燃費の悪い車に乗っていたので頻繁にガソリンスタンドに行っていたのですが、現在は月に1-2回程度に減りました。

逆に注意することは、ゆっくり走るとモーターで走るので、前の歩行者や自転車が付いてくれないので、危ない思いをすることです。

高速や坂道でも走りには特に問題なく現在のところ満足しております。また今後燃費をどれだけ伸ばせるかが楽しみです。



活動委員長
副委員長
黒江浩文

只今、活動委員会副委員長を務め

させて頂いております黒江浩文です。今回2000誌の原稿の執筆依頼がありました。題材に成りうるものがなく、あえて持ち物自慢という事で今回記載させていただきます。

古き良き時代

私はアンティーク時計の収集趣味があり、私の所有している腕時計が1950年前後の物ですので、厳密に言えばアンティークに値するかは疑問符が付くかもしれませんが、「アンティークの定義」

一般的に「アンティーク」という言葉は100年、あるいはそれ以上の年月を経た美術的価値のある古い道具を指す場合に用いるが、20世紀になり発展、普及した腕時計はその歴史が短いため「アンティーク」という言葉で形容するべきではなく、本来「ヴィンテージ」と呼ぶほうが正しいのかもしれないが日本語なら「古時計」となりそれではあまりにも聞こえが悪いので「アンティーク時計」という呼び

名が定着したのではないだろうか。

古き良き時代、半世紀以上、生命ある時計を保存し持ち主が変わっても永遠の刻みを次世代に残す。人との出会いと同じで一目惚れしたり、探し求めていたものにめぐり合えた時の気持ちの高ぶり、何とも表現しがたい至福の時になる。私にとって、それがオメガ シーマスターであった。

建築も同じ、最新技術工法の開発でゼネコン、ハウスメーカーが技術の競い合いをしているが、日本の伝統建築、縄文時代の竪穴式住居から始まり1000年以上の歴史を持つ。何度となく被災した大地震や台風にも耐えた社寺仏閣が現在にも残っていることは、いかにすぐれた構法であったか、古き良き時代の上に、現在の建築工法が成り立っている事を再認識したいものです。

